

# マネージメント情報

## ※規模拡大以外の酪農経営について…Vol\_2

### 「酪農における受精卵移植の積極的な利用…私見」

先月のこの欄での私の考え方に多少の反響がありましたので、今回はそれについてお話しします。

① 酪農の基本はやはり乳牛であるホルスタイン!!!!

② ホルスタインをちゃんと飼うことができない酪農家が和牛子牛を飼うことはできない!

というご意見がありました。全くそのとおりだと思います。酪農家なのですから基本的な軸足は酪農経営です。それ無しには何も始まりません。

私が言いたかったことは、視点を変えることで何億円という設備投資をしあるいは規模拡大をしなくても生産（収入）を上げることができる方法がありますということです。

リスクがゼロでおもったとおりになる話はありません。少しの考え方ややり方を変えることで結果は異なるということです。

確かに和牛の子牛はホルスタインと比べると既に分娩時から異なり（死産リスクが高い）かつ哺育管理が難しいという現実があります。

まず、①生かして分娩させる②哺育期の下痢や呼吸器病の予防・早期発見・死亡させないことが基本になります。一般的なホルスタインに比べると黒毛和牛は1ヶ月早産した子牛という認識が必要で早め早めの対応をしなければなりません。

ただ、これらの対応ができて結果を出している方がいるということも事実ですので、チャレンジする価値は十分にあるのではと私は考えます。

## ※牛肉の輸出入について

下の図は H30 年 11 月の農水省資料です。牛肉の輸出について書かれています。左のグラフを見ると一目瞭然ですが毎年右肩上がりです。主な輸出先は結果として中国ということになります。次ページの牛肉の輸入状況のグラフをみても中国を中心としたアジアの伸びが際立ちます。

このように和牛の需要は増えることがあっても減ることは余程のことが無い限り当分の間は起きないのではないのでしょうか？

【農水省生産局畜産部平成30年11月資料より…畜産をめぐる情勢牛肉・肉用牛関係抜粋】

### 牛肉の輸出について

#### 日本産牛肉の輸出実績

対前年比 (29年) 金額 141% 数量 142%  
対前年同期比 (30年1-9月) 金額 134% 数量 139%

年	輸出量 (トン)	輸出額 (億円)
21年	565	37.7
22年	541	34.3
23年	570	34.6
24年	863	50.6
25年	909	57.7
26年	1,257	81.7
27年	1,611	110.0
28年	1,909	135.5
29年	2,767	151.6
30年 (1-9月)	2,378	155.9

#### 平成31年輸出目標 250億円(4,000トン相当)

※目標値は牛肉は含まない

- 輸出可能国・地域  
香港、台湾、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、UAE、米国、カナダ、EU、ロシア、ブラジル、オーストラリア、アルゼンチン 等
- 動物検疫協議中の国  
韓国、中国、ウルグアイ 等

<輸出国・地域別の施設認定状況> (2019年11月現在) 出典 厚生労働省HP

輸出国	米国	カナダ	EU	ロシア	オーストラリア	アルゼンチン	ブラジル	インドネシア	マレーシア	シンガポール	台湾	香港	UAE	ベトナム	韓国	中国	ウルグアイ					
施設数	10	8	10	10	8	3	4	13	3	8	4	28	2	2	4	4	4	65	68	51	2	35

#### 日本産牛肉の国・地域別輸出実績

H29年輸出量 (牛肉のみ) 2,706 トン

- 香港: 752 トン
- シンガポール: 227 トン
- 米国: 373 トン
- カンボジア: 544 トン
- 台湾: 211 トン
- タイ: 157 トン
- エシ: 131 トン
- ラオス: 56 トン
- その他: 215 トン

資料 財務省「貿易統計」

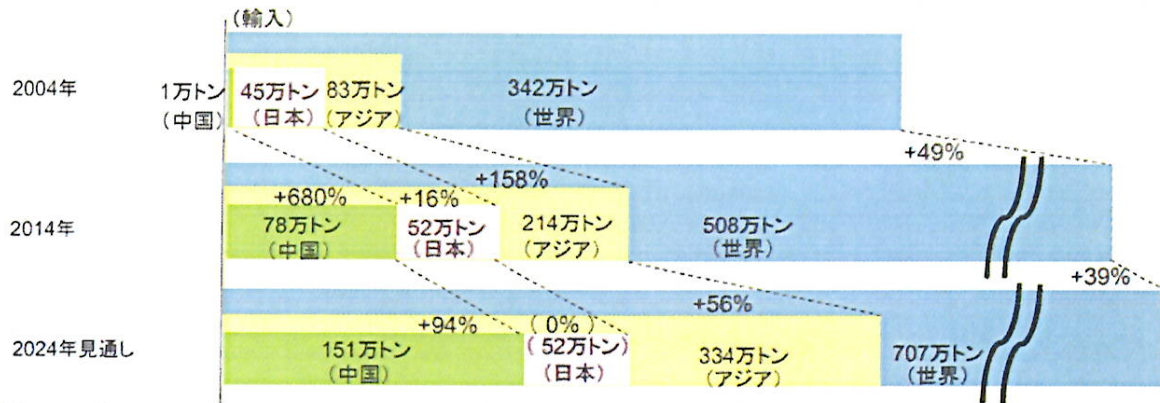
#### 和牛の強みを活かす売り方、食べ方を海外に広め、輸出拡大につなげる

今後の取組

- 高い品質(味・見た目)を活かした販売促進(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域で和牛統一マークの商標登録を目指す)
- 格付け情報、生産履歴情報の提供による和牛の付加価値化の後押し(平成29年度以降、7か国語で提供)
- 新たな肉料理市場の創出等を追求(平成28年度以降3年間で計8か国・地域50人のシェフを日本へ招へい)
- 和牛生産量の維持・拡大(平成37年度までに和牛の飼養頭数を186万頭まで増頭する計画)
- 効率的な流通対策の確立(平成32年までに米国・EUへの輸出に対応可能な施設の処理能力を3割以上拡大)

## 世界とアジア地域の牛肉の輸入状況

- ・ 2004年の世界の牛肉輸入は342万トン、うちアジア地域が83万トン、日本が45万トン。
- ・ この10年間で、中国の牛肉輸入は78倍、アジアは2.7倍に急増し、2014年では我が国と中国で世界の輸入の3割を占める状況。(この間、我が国の輸入量は50万トン程度で横ばい)。
- ・ このように、我が国以外の牛肉需要が急激に伸び、関係者からは、いつまでも我が国が思うままに牛肉を輸入出来る環境になく、買い負けがおきるという声。このため、国内生産をしっかりと振興することが重要。
- ・ 2024年の世界の牛肉輸入量は707万トン(2014年と比べて+39%)、うち中国が151万トンとの見通し。



出典: USDA "Livestock and Poultry: World Markets and Trade" "Long-term Projections 2015 2" (部分肉ベースに換算)

財務省「貿易統計」

※ 本資料中の「アジア」は、2004年は日本、韓国、フィリピン、台湾、香港の計。2014年と2024年は、日本、韓国、台湾、フィリピン、中国、香港、その他アジアの計。(USDA資料中の主要輸入国として明示されているアジアの国・地域を合算)

「中国」は、USDA資料中の中国、香港の計。

「世界」は、USDA資料中の主要牛肉輸入国の輸入量の合計。

「日本」は、貿易統計の数値(年度ベース)。なお、「日本」の2024年見通しは、2014年の輸入実績を置き換えたもの。

2

このような動向からも乳生産は基本として、黒毛和牛の受精卵を利用した繁殖管理は十分に将来性があるかと思えます。この考え方は 3-4 年ほど前から全農 ET センターが中心となり農家採卵事業として展開し実績も証明されてきています。キーポイントになるのは良質な授精卵の確保と受胎率となります。この2つと正常に分娩をさせて出荷することができて初めて成立することになります。

### ※お知らせ

「これからの受精卵を利用した繁殖管理について」という内容で 5 月 23 日の午後 8 時より上春別の事務所二階で 1 時程度の講習会を開催いたします。現在のラボの状況と合わせてお話させていただきたいと思っていますので、お時間のある方は是非とも参加してください。

### ※OPU-IVF

先月 3 年ぶりに OPU を行いました。結果は満足いくものではありませんでしたが現在進行形の体外授精卵業務の肝になる技術ですので、形にしていきたいと思っています。目標は吸引卵子数 22-23 個/回で発生率は 40%と考えています。

.....

・ 元子が令和に変わり、桜の開花も伴い心機一転という気持ちです。平成の政元は昭和天皇の崩御という重苦しい空気で執り行われましたが今回の政元は晴れやかな気持ちで、あらためて自分は日本人なんだと日本に生まれて良かったと感じました。THMS も 6 名の新人が頑張っていてとても初々しい雰囲気の良い風が吹いているように感じます。私のような老体がいくら頑張っても何をしても彼らの若さには全く太刀打ちできません。羨ましい限りです。当分は随行という形で皆様の農場に伺いますが、そのうち一人で伺う機会も徐々に増えるかと思っておりますのでその時は暖かく迎えてあげてください。私が新人獣医師の時に初めて往診に伺った農場は上春別の片岡牧場で、卵胞のう腫の治療でした。晴れのとても良い天気でしたが、おばあちゃんが出てきて不安そうな顔で私を見ていてことを今でもしっかりと覚えています。

R1.5.14.Y